

太田市尾島体育館整備事業 設計・施工一貫業者選定

選定委員会による審査結果の公表

事務局 スポーツ施設管理課・建築住宅課

尾島体育館は、地元の小学校・中学校や各種団体の練習を始め、体育協会主催の各大会会場として多くの市民等に利用されている施設ですが、耐震上の問題があります。また、尾島地区には、岩松町に尾島第2体育館もありますが、同様な問題があることから、本事業により亀岡町の尾島体育館を改築することで、尾島地区の体育館を1箇所に集約し、スポーツの拠点として地域に開かれた安心安全な施設を整備することを目的とします。

■事業概要

事業名称：太田市尾島体育館整備事業
計画地：亀岡町656番1ほか 地内
事業内容：基本設計、実施設計、既存施設解体工事、建設工事、工事監理
事業期間：平成32年3月中旬(予定) まで

■提案者（2者）

横山建設株式会社
大沢建設株式会社

※ヒアリング順に記載



計画地

■審査の方法

選定委員会で、提出された提案書の書類審査及びヒアリング審査を行い、当事業に最もふさわしい提案を特定します。

■審査結果

提出された提案書を厳正かつ公正に審査した結果、

横山建設株式会社 を特定しました。

■選定委員長講評 平成30年11月12日 委員会委員長 尾内 俊夫
今般の建設業界の繁忙状況のなか、限られた日程で当事業にご参画いただいた2者におかれましては、選定委員を代表して心から敬意を表したい。一見単調な提案になりがちな“体育館、”という単一目的の用途に対し、デザインの趣向と建物の向きが異なり、2者とも創意工夫に富んだ提案であった。審査においても評価は均衡したが、事業概要を理解し、利用者の動線を的確に捉え、具体性のある提案が特定となった。

○特定 横山建設株式会社

配置計画の点で、北側に住宅地が位置する既存の敷地状況や現在の建物配置、建物高さ等を今回の整備計画の判断材料とし、北側道路境界からの離隔を広くとった建物配置や、既存よりも4m以上低く抑えた建物高さ等の提案について、周辺住宅に配慮した検討が十分されていた点を高く評価した。また、施設利用の貸出しを2面分割とする際のアリーナと器具庫との利用動線を的確に捉えた内部計画は優れていた。

独創性という点では、『地中地熱利用』の環境省補助申請スケジュールを事前調査されており、採用・不採用二通りの基礎形状を設計し、補助認定の可否に関わらず建設工事工程には臨機に対応しようとする強い意欲が感じられた。また、可動スタンドの『ひな壇』の提案については、観客席となった場合の消防法への対応に課題が想定されるものの、『地中地熱利用』『ひな壇』の何れにしても創意工夫に富んだ提案は高く評価された。一方で、『尾島ねぶた』『扇』のコンセプトからイメージされた外観は、開口部が多く、競技前後の暗幕閉開作業が伴うため、これは利用者の負担となることは想像に難くない。特に、傾斜している南面外壁部分の開口部の遮光についても、その操作性について不安が残る。今後の設計業務において、女性や子どもでも容易に閉開作業が可能で、且つ故障し難い工夫をお願いし、デザイン偏重とならないよう検討をお願いしたい。

○次点 大沢建設株式会社

暗幕の設置を最小限にするための壁天井の木製ルーバーによる直接光の制御は、外観と機能の両立が図られている点は高く評価された。一方で、内部計画において、アリーナと器具庫との位置関係が、施設利用の貸出しを2面分割とする際の使い勝手や利用動線の点において利用者への配慮が不十分であるような印象が窺えた。